

保護者の皆さまへ

飲酒運転の関係者に対する罰則等

酒酔い運転

●飲酒量にかかわらず、言語動作が正常でないなど、いわゆる認知状態で運転する行為

■ドライバーに対しては…

罰則

5年以下の懲役または100万円以下の罰金

違反点

35点（免許取消・欠格期間3年）

■車両の提供者に対しては…

罰則

5年以下の懲役または100万円以下の罰金

■酒類の提供者に対しては…

罰則

3年以下の懲役または50万円以下の罰金

■同乗者に対しては…

罰則

3年以下の懲役または50万円以下の罰金

酒気帯び運転

●呼気1ℓ中0.15mg以上のアルコールを体内に保有した状態で運転する行為

■ドライバーに対しては…

罰則

3年以下の懲役または50万円以下の罰金

違反点

●呼気1ℓ中のアルコール濃度が0.25mg以上の場合…25点（免許取消・欠格期間2年）

●呼気1ℓ中のアルコール濃度が0.15mg以上0.25mg未満の場合…13点（免許停止90日）

■車両の提供者に対しては…

罰則

3年以下の懲役または50万円以下の罰金

■酒類の提供者に対しては…

罰則

2年以下の懲役または30万円以下の罰金

■同乗者に対しては…

罰則

2年以下の懲役または30万円以下の罰金

●車両の提供者…酒気を帯びていて飲酒運転をするおそれのある者に対して、車両を提供した者

●酒類の提供者…飲酒運転をするおそれのある者に対して、酒類を提供した者

●同乗者…ドライバーが酒気を帯びていることを知りながら、車両に乗せてくれるよう依頼・要求をして、酒酔い運転や酒気帯び運転の車両に同乗した者

飲酒運転事故の刑事裁判の判決例

危険運転致死傷罪・道路交通法違反で

懲役20年

酒に酔った状態で一家5人が乗る車に追突して逃走、幼児3人が死亡…

※F高裁 平成21年判決

飲酒運転事故の民事裁判の判決例

損害賠償

約3億円

酒気帯びで対向車線にはみ出し、30代男性がはねられ、植物状態に…

※C地裁S支部 平成18年判決

過失運転致死傷アルコール等影響発覚免脱罪

●飲酒運転で事故を起こしたあと、アルコールの影響が発覚することを免れる目的で、さらにアルコールを摂取したり、その場を離れてアルコールの体内濃度を減少させるなどの行為をした場合………12年以下の懲役

北海道飲酒運転の根絶に関する条例の概要

北海道飲酒運転の根絶に関する条例・附則

多くの道民が北海道の地理的特性などにより車を運転している現状において、我々は、悲惨な交通事故が被害者のみならず加害者にも大きな不幸をもたらすことや、車は危険な乗り物であることを改めて認識しなければならない。「交通死亡事故ゼロ」は、道民全ての願いである。

しかしながら、道路交通法の改正などにより厳罰化が図られたにもかかわらず、平成26年7月13日には、3人の尊い命が奪われるなど、相次ぐ死亡事故の原因ともなっている飲酒運転が後を絶たない。

このため、道民一人一人が、飲酒運転の根絶に向けて、「飲酒運転をしない、させない、許さない」という規範意識を持ち、飲酒運転の防止のために自主的に行動するとともに、道民にその規範意識を定着させるための実効性のある取組が必要である。

一日も早く北海道から飲酒運転を根絶し、道民にとって安全で安心して暮らすことができる社会が実現されるようたゆまぬ努力をすることを決意し、道民の総意としてこの条例を制定する。

道民の責務等

①飲酒運転を根絶するための社会環境づくりに努める

②飲酒運転をしない

③飲酒が身体に及ぼす影響について理解を深める

④道の施策に協力する

⑤飲酒運転をしている人に対する制止に努める

⑥飲酒運転を発見した場合等に警察官への通報に努める

飲酒運転根絶の日(7月13日) 道と道民等が一体となった取組を行う

飲酒運転をしない、させない、許さない！

●ドライバー自身が飲酒運転をしないよう努めることは当然のことですが、その周りにいる人も、

①ドライバーがお店でお酒を注文しようとしたときは制止する

②ドライバーには絶対にお酒を勧めない

③ドライバーがお酒を飲んでしまったときは、運転代行の利用を促すなどする

④ドライバーが飲酒運転をしようとしているときは制止するなど、飲酒運転根絶に努めなければなりません。

中学生の皆さんへ

飲酒運転の根絶に向けて

■お酒を飲んで車を運転する「飲酒運転」に対する厳罰化が進んでいるにもかかわらず、道内でも、飲酒運転による悲惨な事故が後を絶ちません。

■このリーフレットは、お酒を飲んだときの体への悪影響や、飲酒運転をするとうなるか一などをまとめたもので、中学生の皆さんにも「飲酒運転をしない、させない、許さない」という意識を持ってもらい、北海道から飲酒運転をなくし、道民にとって安全で安心して暮らすことができる社会を実現するために作成したものです。

北海道

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
●このリーフレットの掲載内容の無断転載・無断複製を禁じます。(インターネット上の掲載を含む)

1 さまざまな体の機能を低下させる…

- 動いている（または自分が動きながら）物を見る時の「動体視力」が低下します。
- 目で見える範囲（視野）が狭くなります。
- 見た物との遠近を判断する「深視力」が低下します。
- 危険か安全かなどの判断を間違いやすくなります。
- 機械などの操作を間違いやすくなります。



2 長期間飲みすぎると、病気になることがある…

- お酒を長期にわたって飲みすぎると、高血圧や糖尿病のほか、肝臓や心臓、胃腸などの病気にかかりやすくなり、命を落とすこともあります。



3 アルコール依存症になるおそれがある…

- 毎日たくさんのお酒を飲んでいると、家族や仕事、趣味などよりもお酒を飲むことを優先させる「アルコール依存症」という病気になる危険性が高くなります。
- アルコール依存症は、飲酒運転や欠勤、体や精神面の不調といった多くの問題を引き起こすおそれがあります。



4 急性アルコール中毒の危険がある…

- たくさんのお酒を飲むと、急に意識を失ったり、呼吸が止まったりして、生命にかかわる危険な状態になることがあります。
- 特に、お酒に慣れていない20代の若い人による急性アルコール中毒が非常に多くなっています。



知っているかな？ 飲酒運転のこと。

Q 飲酒運転って、どのような運転をすることなの？

A ■お酒を飲んで、体の中にアルコールが残っている状態で車やバイク、自転車を運転することです。
■飲酒運転は、道路交通法という法律で禁止されています。



Q なぜ、飲酒運転をしてはいけないの？

A ■わずかなお酒を飲んだだけで、視力や判断力が低下したり、操作を間違ったりしやすくなり、その結果、歩行者や車、標識などを見落とし、交通事故を起こしやすくなるからです。



Q 飲酒運転による事故には、どのような特徴があるの？

A ■飲酒運転以外での事故が死亡事故になる確率はおよそ170件につき1件であるのに対し、飲酒運転では18件につき1件と、実に10倍近くも死亡事故になりやすいという危険な特徴があります。



※公益財団法人 交通事故総合分析センターの統計データによる全国・平成24～26年の平均概数、自動車・原付の事故、第一当事者

Q 飲酒運転をした人は、どのような罰を受けるの？

A ■次に書いたような、多くの罰を受けることになります。

- ①罰金または刑務所での労働（懲役）を科されます。
- ②免許停止や免許取消の処分を受け、車の運転ができなくなります。
- ③周りの人からの信頼を失います。
- ④会社をやめさせられて、仕事をなくすこともあります。
- ⑤飲酒運転などで事故を起こすと、相手にお金（損害賠償金）を支払わなければならないことがあります。
- ⑥飲酒運転で事故を起こして自分が死んだり、けがをしたときは、自動車保険に入っている場合でも、保険金はもらえません。



事故被害者の苦しみや悲しみは一生消えません

- 飲酒運転をすると、事故を起こして誰かを傷つけたり、一生働けない体にさせてしまったり、最悪の場合には死亡させてしまう危険性が非常に高くなります。
- 事故を起こすと、自分自身が大きな罰を受けることはもちろん、事故の被害者やその家族も大きな苦しみと悲しみを一生負い続けることになる…ということを、決して忘れてはなりません。



家族など知り合いが飲酒運転をしようとしたときは、飲酒運転をやめるよう声をかけましょう。

飲酒運転は、人を傷つけたり死なせたりする危険が大きい犯罪です。失われた命は取り返せません…